

攘夷派に襲われ英国人が殺害された東禅寺



山門が閉じている場合は通過します。



高輪の東禅寺境内と  
サーベルによる傷跡  
が残る玄関柱

北品川の御殿山に建設中の  
英国公使館の仮の公使館と  
して使われた。

## 「虎ノ門ヒルズビル街」



## 江戸新選 33 観音霊場巡拝地図

高輪、三田、札の辻、芝、愛宕山、虎ノ門

品川駅スタート - 東禅寺 - 高野山  
 東京別院 - 桂坂 - 泉岳寺 -  
 伊皿子坂、道往寺 - 魚籃坂、魚籃寺  
 - 幽霊坂、おしろい地蔵 - ひじり坂  
 、済海寺 - 御田八幡 - 増上寺 -  
 東京タワー、金地院(神谷町交差点を  
 六本木方面右側に麻布台ヒルズが、昨年



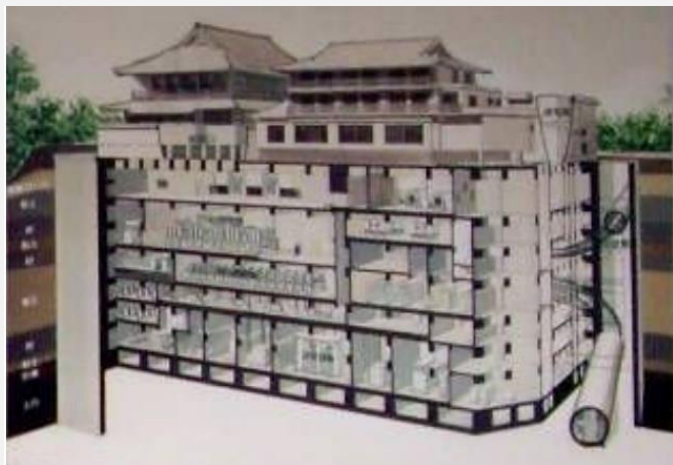
秋開店 - 幸神社、切通坂、オランダ大使館  
 天徳寺 - 愛宕山隧道 - 愛宕社 -  
 愛宕新道 - 虎ノ門レジレンタルタワー  
 - 日比谷線虎ノ門ヒルズ駅(仮解散) -  
 JR北千住駅まで案内します。

相馬霊場を巡る会 熊倉健治  
<http://88souma.net/>

2024/1/28 記



## 高野山東京別院地下の変電所概要図



### 江戸 33 観音第 29 番本尊聖観世音菩薩像

聖観世音菩薩の現在(2024)のお勤めは、東京電力の変電所を守り、毎日都民に電気を供給する菩薩となった様です。



## 御田八幡社

御祭神、菅田別皇尊、  
天兒屋根命(あめのこやねのみこと)、  
武内宿祢命(たけのうちすくねのみこと)  
創建、和銅二年(709)  
境内社、五光稻荷神社、御嶽神社  
社格、旧郷社、延喜式内論社  
「御」=「み」=「三」、  
(例)御影堂=みえどう  
辞書：御田=おでん、おた、神社所有地



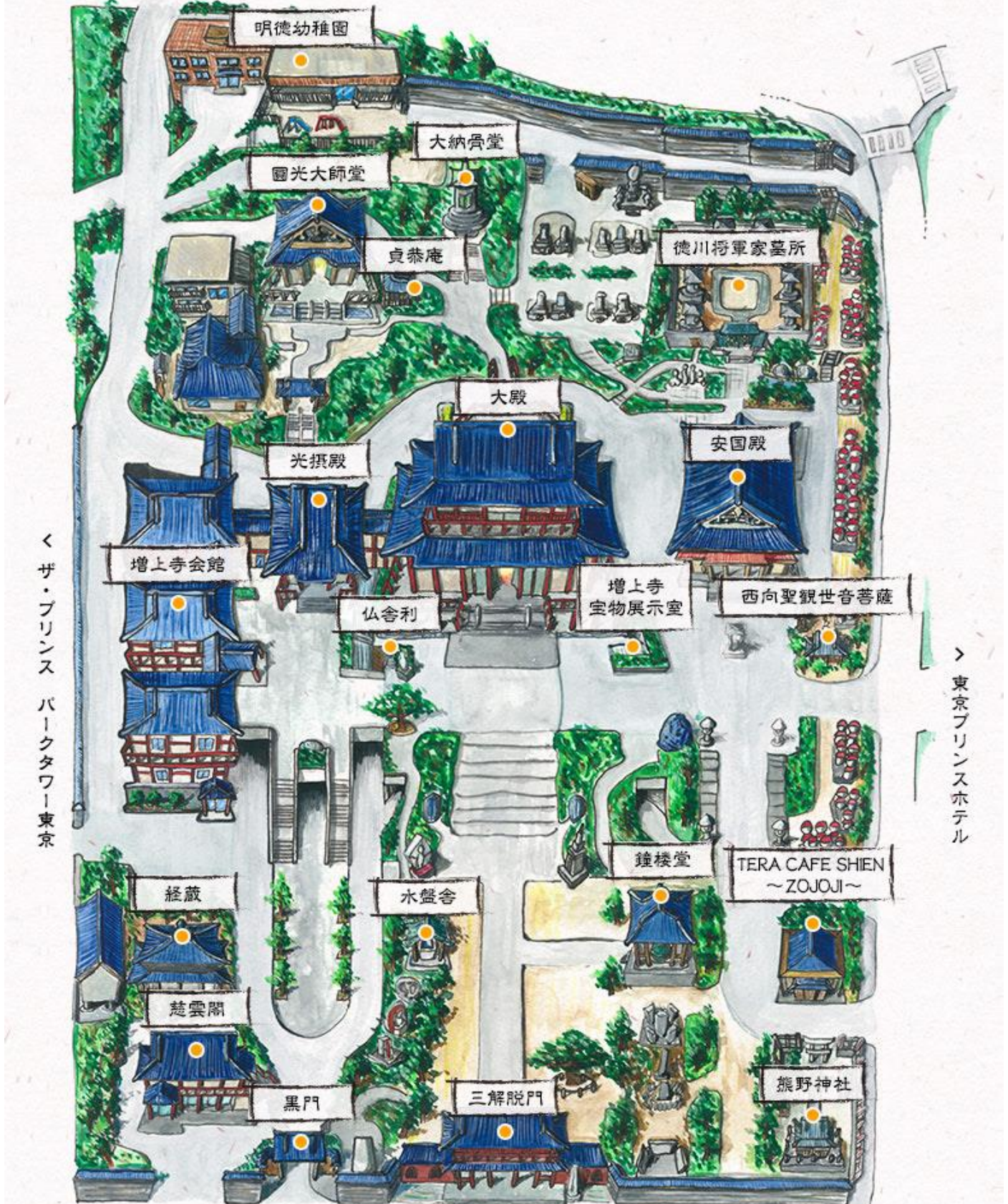
徳川家康の江戸城入城の際に現在地に社殿を造営し、寛文2年(1662)に遷座しています。  
しかし、寛文8年2月の大火により社殿は全焼したが、寛文12年8月に再建されました。  
慶応元年(1865)に延喜式記載の「稗田社(ひえたしゃ)」に改称したが、明治5年(1874)には「三田八幡神社」に改称し、郷社となりました。  
明治30年(1897)に「御田八幡社」に復し、旧社格制度廃止により「郷社」とは呼ばなくなっています。  
昭和20年の東京大空襲で社殿が焼失し、昭和29年に復興されました。

## 幽霊坂のお化粧地蔵



お寺が多く道幅狭く静寂で怖いため幽霊坂という。坂の中ほどにある玉鳳寺の山門は、226 事件で暗殺された。第七代総裁の高橋是清が寄進した門。  
玉鳳寺には、御化粧延命地蔵、通称：おしろい地蔵があることで知られています。  
山門の傍らにある小堂を見ると、白化粧のお地蔵様が居られます。

芝増上寺境内の徳川家墓所



増上寺に埋葬されているのは、2代秀忠、5代将軍兄弟の綱重、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6人の将軍の他、女性では将軍正室として2代秀忠夫人崇源院、6代家宣夫人天英院、11代家斉夫人広大院、13代家定夫人天親院、14代家茂夫人静寛院の5人、将軍の側室としては3代家光の桂昌院、6代家宣の月光院など5人、その他、将軍の子女を含む計38人です。

正面右側に2代秀忠公の墓所があります。焼失前の宝塔は霊廟室内に祀られ、大変大きなものでありました。しかし、惜しくも木造のため、戦災で焼失。現在は、内室崇源院と共に合祀されています。

## 江戸新選三十三観音霊場巡り

高輪、三田、虎ノ門の札所巡り

坂名 さくら坂、高輪プリンスホテル前

洞(ほら)坂、東禅寺周り

海上禅林佛日山東禅興聖禅寺

(かいじょうぜんりんふつにちさんとうぜんこうせいぜんじ)、

臨濟宗妙心寺派別格本山。建立は宝永七年(1710)八月、御本尊は地藏菩薩像。

江戸触頭(ふれがしら)四箇寺(しかじ)の一寺、

江戸触頭とは、幕府からの通達を配下の寺院への伝達や、本山や配下の寺からの幕府への訴願、諸届を上申達する役を負った、宗派別寺組。

四箇寺とは、江戸臨濟宗妙心寺派の四ヶ寺です。湯島の天沢院麟祥院、牛込の蒼竜山松源寺、浅草の大雄山海禅寺と当寺でした。

尚、当寺は一般参拝者の立入りを制限していますので、山門が閉じている日は立入禁止となります。

**東禅寺山門の紋章、**

当寺に伝わる裏紋の様で、中央の大きな月の周りに九つの小さな七曜星十羅喉(らご)と計都(けいと)の九曜星で「十曜紋(じゅうようもん)」とも呼ばれます。九曜門の中央は太陽ですから、月は裏紋となります。千葉神社では、社紋九曜門と呼びますが家紋です。

東禅寺の歴史。

慶長14年(1609)、伊東祐慶が嶺南崇六を招聘して同区赤坂に創建。

寛永13年(1636)、現在地に移転。

眼前に東京湾が広がる事から海上禅林と呼ばれる。

東禅寺庫裏玄関脇門柱に残る刀傷とサーベルによる突穴の跡が残っていました。写真

安政年間(1855~1860)以降、西洋人用の宿舎に割り当てられていました。

安政六年、イギリス公使館が仮に置かれる。

文久元年(1862)、攘夷派の常陸水戸藩浪士によって襲撃されました。第一次東禅寺事件、境内庫裏の玄関脇外柱に刀痕が残ったのはこの時です。

東禅寺の説明高札に、安政五年(1858)七月に締結された日英通商条約により、翌6年6月6日イギリス初代公使オールコック等がここに駐在し、我が国最初の「イギリス公使宿館」となります。

文久二年(1862)、護衛役の信濃松本藩藩士によって再び襲撃される第二次東禅寺事件が起きます。

二度目は、オールコックが帰国中の、文久二年5月29日、東禅寺警備の松本藩士伊藤軍兵衛が、長槍を所持して公使の庭に忍び入り、見張り警備のイギリス人を殺害しました。

英国は、明治6年(1873)頃まで、公使官として使用したのですが、それは境内の一部で、大玄関と庫裏及び書院と奥書院でした、現在その一部である奥書院と玄関が旧時のまま保存されており、その他は昭和初期に改築されています。(東京都教育委員会)

伊達家の重臣のお墓が多く、伊達秀宗(だてひでむね)、天正19年(1591)~明暦4年(1658)、江戸時代初期の大名で伊予宇和島藩の初代藩主、伊達政宗の長男ですが庶長子(しよし)である、正室ではない女性から生まれた子供らが葬られています。

## 第廿九番、高野山東京別院、

旧称 高野山江戸在番所高野寺、高野山真言宗、

延宝元年(1683)創建、

ご本尊、弘法大師、札所本尊、聖観世音菩薩、

ご真言、おん ありりきや そわか、

ご詠歌、ありがたや 高野の寺の観世音

大慈大悲に すがるうれしさ

新四国御府内(ごふない)八十八カ所霊場 第一番。

御府内とは、江戸時代の江戸城を中心として品川、

四谷、板橋、千住、本所、深川の内側の地域で、ほ

ぼ、現在の東京23区内と考えて良いでしょう。

東京23区内は都内と言いますが、23区外を都下

(とか)といいます。最近聞かなくなりました。

高野山東京別院は、徳川幕府が開かれた際、高野山の学侶方の在番所の寺として、浅草の日輪寺に寄留して開いたのが始まりです。

その後、芝の地を下賜された事により、延宝元年(1683)、正式に「高野山江戸在番所高野寺」として建立されました。昭和二年、現在の高野山東京別院と改称され、今に至ります。

**本堂地下の東京電力変電所**

地下には平成元年完成の「東京電力パワーグリッド高輪変電所」が設けられています。

地下7階建で、床面積は延べ約2万㎡。

東京電力は、当時都心部で新たな変電所を建設するだけの土地の確保が困難な為、地下に建設した。地中送電線で地元を主に地下鉄等に活用している。

坂名 桂坂、昔、蔦葛がはびこっていた、他説有。

第一京浜国道15号~高輪警察署横迄

万松山泉岳寺、曹洞宗。

ご本尊、釈迦如来。

青松寺、総泉寺と共に江戸曹洞三箇寺の一寺です。

慶長17年(1612)に徳川家康が外桜田に門庵宗関

(もんなんそうかん)を招いて創建。

寛永18年(1641)、寛永の大火で焼失したが、將軍家光の命で、毛利、浅野、朽木、丹羽、水谷、今川の六大名により、現在の高輪の地で再建されました。

浅野家と泉岳寺の付き合いは、この頃から始まりました。浅野内匠頭長矩(あさのたくみ)の(のり)と赤穂浪士が葬られていることで有名であり、現在も多くは参拝客が訪れます。また、毎年12月13日と翌日には義士祭が催されます。また境内に、赤穂浪士ゆかりの品を所蔵している「赤穂義士記念館」があります。

義士の討ち入り後、当時の住職が義士の所持品を売り払って収益を得たことに世間の批判が集まり、あわててこれらの品を買い戻しに走ったことがあるそうです。

「高島易断」で知られる高島嘉右衛門の墓もある。

境内には学寮があり、後に吉祥寺の施檀林(せんだりん)学寮、青松寺の獅子窟学寮と統合して駒澤大学に発展したほか、現在でも僧侶は境内の学寮で共同生活を行いながら大学に通学しています。

隣りの承教寺には、江戸時代に流刑画家「英一蝶(はなぶさいつちょう)」の墓があります。

赤穂藩主浅野家は茨城県真壁城主。

台雲山花岳寺(たいうんざんかかくじ)は、兵庫県赤穂市加里屋にある曹洞宗の寺院で、歴代赤穂藩主の菩提寺です。

提寺です。

播磨国(はりまのくに)赤穂藩、浅野家、永井家、森家歴代藩主の菩提寺であり、また、大石良雄の祖先が眠る大石家墓地、義士墓があります。

藩主、浅野長直(ながなお)慶長15年(1610)〜寛文12年7月24日(1672/09/15)は江戸時代前期の外様大名。浅野家では初代の播磨国赤穂藩主、五万三千石。赤穂藩の基礎を築いた名君であり、元禄赤穂事件の浅野長矩(あさのながのり)、官名が浅野内匠頭(たくみ)の祖父として知られています。

赤穂市の台雲山花岳寺境内の浅野長直之墓と義士の墓があります。

慶長15年(1600)常陸国真壁藩主、後に常陸国笠間藩主として浅野長政を先祖とする、浅野長重の長男として長矩は生まれました。

母は三河吉田藩主松平家清の娘。幼名は又一郎。正室は丹羽長重の娘。子に浅野長友と娘大石良重室。寛永8年(1631)12月3日従五位下内匠頭に叙任、同9年10月29日、父の後をついで笠間藩主となる。

以上のように浅野家が、茨城県真壁の出身であることは、あまり知られていない。

高輪大木戸跡(参拝無)

宝永7年(1710)、東海道から江戸府内の入口として、また南の出入口として設けられた大木戸の跡です。木戸は始め、元和二年(1616)に芝口門が建てられ、高札場が置かれ札の辻に設けられましたが、100m南の同所に移転し高札場として大木戸が設けられました。

芝口門のあった場所は元札ノ辻と呼ばれました。

木戸は、始めは街道の両側に築かれた幅約20mの土塁の間に木戸を設け、明け方六ツに開き、暮れ六ツに閉じて、治安維持と交通規制の役割を果たした。

現在の木戸の大きさは両脇に長さ五間(9m)、幅四間(7.2m)、高さ一丈(十尺)3mの石垣で、間に柵と門が設けられています。

幕末期に伊能忠敬はここを全国測量の基点としてとされています。

昭和三年(1928)に、国の史跡に指定されました。

余録 JR東日本の羽田空港アクセス線

国道409号の札ノ辻橋は、山の手、京浜東北、東海道、上野東京ラインの在来線と東海道新幹線が橋下を走る。線路の数をよく見ると11本の線路があり、まず、新幹線の海側に架線の無い1本の線路が敷かれ赤錆常態です。この線路は大汐線という新橋〜東京貨物ターミナルを結ぶ貨物専用線です。

廃線では無いのですが全く利用されず放置状態。先日、NHKのプラタモリで紹介されていた。

JR東日本「羽田空港アクセス線、仮称」が7年後に開通の予定で東京駅〜羽田空港第2ターミナルに乗り予定で大汐線は生まれ変わります。

専門家の話では、現在列車ダイヤがパンク状態の湘南乗入の東北、高崎、常磐線の50%以上が羽田空港行になると予想しています。乗ってみたいです。

第廿七番、来迎山道往寺(どうおうじ)、

浄土宗、開基、不詳、寛文年間(1661〜73)創建、

ご本尊、聖観世音菩薩、

ご真言、おん あろりきや そわか

観音札所ご本尊、千手観世音菩薩、

ご真言、おん ばざら たらま きりく

ご詠歌、かかるよにうまれあうみのあなうやと

をもはでたのめ十こえひとこえ

道往寺は、享保年間中往時の江戸観音霊場として大変な賑わいを見せ、一時期は、西方観音札所として廿一番聖観世音と廿二番千手観音の、二つの札所を兼ねたそうで、今も当時の札所番号を記した石塔が門の傍らにあり、往時を偲ばせてくれました。

寛文年間の1661～1673年に建立。

江戸時代後期には月見寺と呼ばれ「廿六夜待ち」

月の名所として人気を集めました。2013年改築。

伊皿子坂途中に「EAT シンフォニーオーケストラビル」があります。

当寺裏手の伊皿子坂(いさらごさか)上の交差点に、血脇守之助の「歯科医学教育発祥之地」碑がある。

坂名 伊皿子(いさら)坂、同名の中国人が居たから。

坂上までの区間が伊皿子坂で、その先は、

坂名 魚籃坂、坂上から坂下の国道一号迄の区間。

第廿五番、三田山水月院魚籃寺(ぎよらんじ)

浄土宗、開基、法誉上人、寛永七年(1630)、

ご本尊、魚籃観世音菩薩、

ご真言、おん あろりきや そわか

ご詠歌、身をわけて 救う乙女の魚かごに

誓の海の深きをぞ知る

元和3年(1617)頃に豊前国中津にある円応寺に称誉が建立した塔頭である魚籃院を前身とする、寺の創建は承応元年(1620)称誉が現在の地に観音堂を建て、本尊をここに移したことに始まる。

魚籃坂の中程にある、朱色の山門が魅力的なお寺です。

聞きなれない名称である御本尊の「魚籃観世音菩薩」は、中国で派生した観音伝承の一つです。

このような派生形観音には、様々なものがあり、観音菩薩の三十三化身として表されます。

有名どころではインド起源の白衣観音や楊柳観音等があり、江戸観音では三十一番品川寺の水月観音も同じです。

◆ 魚籃観音には興味深い伝説がありました。

その昔、中国が唐の時代、金沙羅(きんしゃら)という、仏教信仰のなかった地方に一人の美しい乙女が竹籠に魚を入れて商いをしておりました。容姿だけでなく、品行も素晴らしかったので、地元の人達から求婚されます。

乙女は「3日間で法華経一部八巻を読誦できるようにになった方の許に」と答えます。

これを馬郎という若者が見事に成し遂げ、この乙女を妻に迎えることになりましたが、嫁入りの朝に乙女は急死してしまいます。悲しみの葬儀から数日後、一人の老僧が現れて村人にこう告げます。

「この乙女こそ、観世音菩薩の御化身で、この地に仏法をお広めなされるための仮の姿である。」

村人が棺の蓋を開けて見ると、中には金色に輝く連なったお骨であったそうです。馬郎は乙女の姿を

刻んで、長く家におまつりしました。

この観音のお姿は、髪を唐風の髷に結んだ美しい乙女が、右手に魚を入れた竹籠を提げ、左手で裳裾を少し引き上げている態なのだそうです。

馬郎の子孫がこの御尊像を捧持して長崎へ来た時、法誉上人に寄進され、後に法誉上人は、この三田の地に小さな庵を建て尊像をおまつりしたのが魚籃寺の始まりだそうです。

現在の魚籃寺は弟子の称誉上人が創建したものです。以上、小冊子からの抜粋です。

本堂の賽銭箱に付いている寺紋は、お魚の入った竹籠がデザインされていました。

身代わり塩地藏

魚籃寺境内には、塩が大量に供えられた「身代わり塩地藏」という、変わった名のお地藏様が、水子地藏の右後ろに、見る事が出来ます。

昔、高輪の海中から出現されたそうで、塩を供えて願を掛ければ願い事が叶い、また、人に代わって災難を受けて下さるのだそうです。

当時のお地藏様は海から上がったせいで、脆くて壊れてしまいました。従って、新しく作ったので、それまでのお地藏様は、新たなお地藏様の下に埋められているのだそうです。

坂名 幽霊坂、坂の両側に寺院が多く静かな為。

国道一号から亀塚公園迄。

梧棲山玉鳳寺、

御化粧延命地藏尊、俗称「おしろい地藏」が幽霊

坂の山門横にまつられています。

これは八丁堀の地藏橋畔に放置されていたものを住職格翁宗逸和尚が修復、また、この地藏が大変泥にまみれているのを不憫に感じた住職が白粉を塗って祭ったところ、和尚の顔面の痣(あざ)が消えたので人々が病気のあるところと同じ部分に白粉を塗って祈願するようになったといわれています。

住職同様顔の痣や傷、シミに悩む人から肌、特に顔を綺麗に保ちたい人、もちろん上記以外の願いを持つ人も連日絶えることなく白粉を地藏に塗り祈願していくそうです。

他に宝塚歌劇団の北原遥子(ようこ)の遥子観音、美遥(びよう)観音像が境内にあります、

宝塚歌劇団卒業生で日本航空123便墜落事故犠牲者の一人でした北原遥子の実家は玉鳳寺の檀家でした、芸能界での大いなる前途とまだ24歳であった人生を絶たれた北原を偲んで建立した像です。

観音光音禅師の故郷の近くにある御巢鷹山では、坂本九さんも犠牲になられています。

**坂名 聖(ひじり)坂**、高野聖が開いた坂といわれる。

## 第廿六番、周光山長寿院濟海寺、浄土宗

(しゅうこうさん ちょうじゅいん さいかいじ)、  
開基は念無上人、元和七年(1691)創建、

ご本尊、亀塚正観世音菩薩、

ご真言、おん ありりきや そわか

ご詠歌、昔より たつともしらぬ いまくまの

ほとけのちかひ あらたなりけり

寛永2年(1625)牧野駿河守の後援によって念無聖が、浄土宗の寺院として創建、これにより牧野家の菩提寺となりました。

寛文5年(1665)松山藩2代藩主松平隠岐守定頼公が江戸藩邸の三田中屋敷で急死、遺体は藩邸近くにある浄土宗濟海寺で荼毘に伏され礼拝所が整備されました。公の遺骨は国許の菩提寺、大林寺へ埋葬、靈廟が造営されました。以降、濟海寺は牧野家と松平家の菩提寺となりました。

四国伊予松山藩からは金二十五両、住職へは金百疋、靈位守へも金百疋が寄進されています。

幕末には、江戸五宿寺のひとつでした。

丁寧に案内された本堂内の豪華さに少し圧倒されつつも、右側に安置された札所御本尊の亀塚観音に進むと、そこに安置されていたのは、こじんまりとした造りながら、靈龜の上に立つておられる観音様という珍しいお姿の観音さまでした。帰りがけに頂いた由緒書きには面白い由来が書かれていたので、かいつまんで紹介します、

◆ この寺は、更級日記に書かれている伝説の寺、竹芝寺の跡地とされています。

千数百年前、武蔵国竹芝郷の若者が御所の衛士に徴用されていました。

ここの若者と皇女があるきっかけで東国へ駆け落ちします。追っ手が掛かるが、皇女が「前世からの約束事、決して帰らない」と帝に伝えると、やがて帝も許し武蔵国から上がる収入を若者に与えた。

若者は立派な邸を立てて皇女を住まわせます。その子孫が武蔵の姓を名乗る。やがて皇女が亡く

なると、この邸は寺となりこれが竹芝寺だという。

竹芝寺は、徳川時代に観音堂一字を残すのみとなり、その観音堂に安置されていたのが亀塚観音といわれています。

現在の亀塚観音は江戸時代の作で二代目だそうで、初代は江戸大火でお寺ともに残念ながら類焼したそうです。

## フランス公使館跡地、

安政5年(1828)に日本最初のフランス公使館が設置されていた場所でもあるそうです。

## 亀塚公園

竹芝伝説の竹柴の衛士の宅地にあった酒壺の下に住んだ靈龜を土地の人が神に祀ったものとされる。

縄文時代の住居跡が発掘されています。

江戸時代は上野沼田藩土岐伊勢守、下屋敷で明治維新後は皇族華頂宮家が日本橋浜町の元諏訪藩邸跡から此処に移る。

大正13年同宮家断絶後は一時期内大臣邸となつたが昭和8年建物は壊され、昭和20年には空襲により庭園は破壊されています。その後、公園として整備され昭和27年港区立亀塚公園として開園された。

## 御田八幡神社

御祭神、誉田別尊命(ほんだわけのみこと)主祭神

天兒屋根命(あめのこやねのみこと)

武内宿禰命(たけのうちのすくねのみこと)

和銅2年(706)8月、東国鎮護の神として牟佐志国牧岡の地に祀られたのに始まります。



寛弘7年(1011)、武蔵国御田郷久保三田に遷座し、嵯峨源氏渡辺一党の氏神として尊崇された。

延喜式神名帳には「武蔵国荏原郡 稗田神社(ひえだじんじゃ)」として記載されています。ただし、「延喜式内稗田神社」は、大田区蒲田の稗田神社、東六郷の六郷神社も論社となっています。

徳川家康の江戸城入城の際に奇瑞があったことから、現在地である荏原郡上高輪村海岸を開拓して社殿を造営し、寛文2年(1662)8月に遷座が行われました。しかし、寛文8年2月の大火により社殿は全焼、仮殿が伊皿子坂薬師寺に置かれた。

寛文12年8月に社殿が再建され再度遷座された。慶応元年(1865)に神祇官により延喜式記載の「稗田神社」に改称、明治5年(1872)に「三田八幡神社」に改称し、郷社に列していました。

明治30年(1897)に「御田八幡神社」に復す。昭和20年の東京大空襲で寛文12年造営の社殿が焼失し、戦後の昭和29年に復興されています。

### 元和のキリシタン殉教碑 芝口札の辻

元和9年(1623)12月4日、デ・アンジェリス神父、ガルベス神父、ジョアン原主水をはじめとする50人が火刑によって殉教しました。

現在の札の辻交差点になる芝口札の辻は東海道家ら江戸への正面入り口で、高札場であったため、多くの人が江戸に入るために通過しました。小高い丘となっていたこの地で処刑されたのは、見せしめのためでした。

同年同月、殉教者の妻と子ども達の24人が、同じ

ように市中を引き回しされた上、ほぼ同じ場所で処刑されました。この時、キリシタンを匿った人達13人も処刑されたと云います。

キリシタンの6人が火刑、17人が斬首、2人が磔刑でした。

芝口札の辻での殉教者は次の通りです。

寛永元年(1624)6月12日 18人が処刑。

寛永6年(1630)1人が鋸刑(きよけい)

寛永8年(1632)6人が火刑、1人が斬首。

寛永15年(1638)6人が磔刑、14人が斬首。

寛永17年(1640)神父2人が火刑。

この地は長く不浄の地とされ、人びとが住みませんでした。約50年後の明和年間に智福寺が建てられました。智福寺は現在の済海寺の下にあつたとされるが、後に練馬区に移転したといえます。

『智福寺開山一空上人略伝記』には、「この地が処刑地で長い間空地となっていたが、ここに寺を建てることとて罪人が浮かべられる」と考えたと書かれています。

### 第二十一番 三縁山増上寺、西向観音堂

浄土宗大本山

御本尊、阿弥陀如来

札所本尊、西向聖観世音菩薩

ご真言、おん あろりきや そわか

ご詠歌、ありがたや 西向観音に詣る身は

現世安穩 後生極楽

増上寺は、明徳4年(1383)浄土宗第八祖聖聡上人の開基により開かれた寺院で、開山当初は現在の千

代田区平河町付近にあつたが、徳川家康公の帰依を受け日比谷に移転した後、慶長3年(1598)江戸城の拡張に伴い現在地に移りました。

江戸時代、徳川家の菩提寺として隆盛を極め、関東十八壇林の主座をつとめるなど、京都知恩院に並ぶ位置を占めていました。

### 大門

浜松町駅北口付近から延びていた参道に建つ総門で、現在でもその名残でコンクリート造りの門が建っている名所。駅名や地名にも大門の名が見られる。

### 三門

大門から更に参道を進むと、大きな朱漆塗の門が出てくる。門が大きいので、大門と誤解する人がいるが、こちらは三門造りです。

三門は正式名称を三解脱門とも言う、三つの煩惱を解脱するのだそう。

五間三戸の入母屋造り楼門は、国の重要文化財に指定されており、上層には釈迦三尊像と十六羅漢像が安置されています。

### 大殿

昭和49年に再建した本堂と根本道場などの機能を有する堂宇で、本尊の阿弥陀如来と宗祖法然上人などが安置されています。

### 安国殿

大殿の右に建つ安国殿は、家康公が深く尊崇したという恵心僧都作と伝わる秘仏黒本尊を祀る。

黒本尊は阿弥陀如来像で、厄除や勝運のご利益があると、多くの参詣客を集めています。

増上寺の納経印はこの中でいただくことが出来る

が、「江戸観音霊場第二十一番の御朱印」と告げない  
と、増上寺の御朱印になるので、気をつけて下さい。

### 江戸三十三観音札所の観音堂

札所本尊の西向聖観音を祀るお堂で、本尊阿弥陀  
如来は東向きなのに対し、この観音様は西向きに立  
つておられる。

### 徳川家霊廟

安国殿の後ろには徳川將軍家の墓所がある。

固く閉ざされた「鑄拔門(いぬきもん)」と呼ばれる  
門があり、中を窺い知ることにはできない。年に7回  
ほど公開される日がある。

廟所には15人の將軍の内、二代將軍秀忠公をはじ  
めとする6人の將軍の墓が設けられている。

### 四菩薩像

徳川家霊廟前に普賢や地藏、虚空蔵や弥勒の四菩  
薩像が祀られています。正嘉2年(1858)の作である  
と看板に記されておりました。元々は境内奥の地藏  
山に安置されていた像を移したのだそうです。

### 鐘楼堂

三門を入れて右側に建つ鐘楼堂は、戦後に再建さ  
れた堂ですが、建立当初の堂は寛永3年(1626)のも  
のでした。鐘楼堂に下がる梵鐘は、延宝3年(1673)  
に鑄造された重量約15トンの大梵鐘で、上野寛永寺  
や浅草寺とともに、江戸三大梵鐘の一つに数えられ  
ています。

元旦の零時から一般の人も鐘を突けるのですが、  
12月1日に整理券が配られ、1人二千円要です。

山門内陣の御開帳広告、釈迦三尊と十六羅漢像の

修復のため公開され、拝観料は五百円でした。

記念に「増上寺の竹製のしをりを頂いた。

寛永9(1632)年1月、増上寺第17代貫主の照誓了  
学(しょうよりょう)は、取手弘経寺の住職でもあ  
りました。北小金東漸寺貫主なのですが、徳川秀忠  
がお亡くなりになった際は、大導師として葬儀を執  
り行いました。

### 第二十八番、勝林山金地院(こんちいん)

臨済宗南禅寺派、同派の東京支院

札所本尊、御本尊ともに、聖観世音菩薩

ご真言、おん あろりきや そわか

ご詠歌、そのかみの 祇園精舎を 名におえる

寺のみほとけ おがむうれしき

入口に「臨済宗金地禅院」と彫られた大きな石標  
と、江戸三十三観音札所二十八番」と彫られた少し  
小さな石標が立っています。

入口から本堂が見えるが、お寺らしい雰囲気  
物ではないので、石標を目印に訪れるとよい。

金地院の創建は、元和5年(1619)で、当初は江戸  
城田安門内にあり、現在の地に移転したのは、寛永  
15年(1638)、三大將軍家光公の命によるものです。

江戸名所図会に描かれている金地院を見ると、広  
大な寺領に本堂や方丈等々大きな伽藍を有していた  
のがわかる。しかし、天明6年(1786)、文化8年  
(1811)と、二度の火災によりほとんどの伽藍を焼失  
したといえます。

更に、昭和20年の東京大空襲により全てを焼失し  
てしまったとのことで、現在ある本堂は、本尊聖観

世音菩薩と共に昭和29年に再建されたものです。

東京タワーもこの焼け跡に建てられたというから、  
当初の寺域の広さは相当なものであることが伺われ  
ます。

金地院は臨済宗南禅寺派に属する寺院で禅宗のお  
寺です、石標に刻まれた「世外勝境」俗世間をはな  
れた景色の良い所、と、文字から雰囲気は伝わる。

八角形をした洋風の本堂にはカーポートのような  
テント張りの向拝が付してあり、禅宗様式ですが、  
建物にマッチして好印象な雰囲気がある。

宝珠の代わりなのだろうか、屋根の頂点には針  
金?で造られた丸い裝飾が載っています。

### 金地院から見た東京タワー

本堂の参拝を終えて階段を下りて正面を見ると、  
迫るように東京タワーが見えます。

門を入った境内の右手は小さな庭園になっている。  
季節の草花も植えられていて、手入れの行き届いた  
お庭があるので腰を掛けて、しばし花と東京タワー  
を眺めて観るのも良いかも・・・。

また、タワーの展望台から金地院の建つ方角を眺  
め、今は小さな金地院境内が、その昔は東京タワー  
を含めた大伽藍であったこと。更に右隣には、現在  
でも大伽藍を有する増上寺と肩を並べた寺院であ  
ったと想像すると、東京タワー展望台に寄ってみた  
くなりませんか。

### 坂名 切通坂、別名 手まり坂、

手まり坂の由来については記事無し。

## 幸稻荷神社、

ご祭神、伊弉諾命と伊弉冉命、倉稻魂神(うかのみたまのかみ)は五穀豊穰をつかさどる。

幸稻荷神社天徳寺から金地院へ来る途中、東京都水道局芝給水所の前に鎮座しています。

江戸初期の寛永年間に府内古社十三社に定められ、東京でも最も古い神社の一つと考えられています。

創立は時代を更にさかのぼる応永元年(1394)四月、現在の芝大門芝公園十号地である武蔵国豊島群岸之村の鎮守として勧請されたと伝えられています。

古くから、この付近は鎌倉街道にあたり、人々の往来も盛んで、郭公の名所としても知られ、江戸時代にいたって境内には講談寄席、大弓場、水茶屋等が常設され非常にぎわいをみせていました。

社号は、初め岸之稻荷と称せられておりましたが、氏子や信者中に幸事が続出したためいつの頃からか、幸稻荷神社と尊称されるようになりました。

## 旧芝浄水場の遺構と芝給水所

サッカー場になっていますが、切通坂に面した部分に遺構の一部が残されています。

芝給水所は、信濃小諸藩主 牧野遠江守康済の屋敷跡地に、芝給水工場として明治28年(1895)8月に竣功、明治31年12月に淀橋浄水場から浄水を受け給水を開始しています。現在稼働中。

この給水所は、淀橋浄水場、本郷給水工場と共に、東京近代水道の始まりとなった施設で、その後約百年にわたり、関東大震災や戦災に見舞われながらも、東京都民の暮らしに欠かせない水を送り続けてきま

した。旧芝給水所は煉瓦造りであり、東京における近代水道創設当時の高い土木技術を物語る文化的技術的遺産です。

## 第廿番、光明山和合院天徳寺、浄土宗

御本尊、阿弥陀如来

札所御本尊 聖観世音菩薩

ご真言、おん あろりきや そわか

ご詠歌、おぼろ夜の そらあきらけき寺の内

心にかかる 雲とてもなし

天徳寺は、江戸時代には江戸浄土宗四ヶ寺の一つとして寺格も高く、愛宕山西側一帯を寺域とするほどの大きな寺院であったらしい。

創建は天文2年(1533)と古く、江戸城紅葉山に庵を開いたのが始まりといわれ、後の天正13年(1585)霞ヶ関に移転、更に江戸城拡張のため、慶長16年(1611)現在地に移転したとされています。

門前の左側には「西之窪観音」と刻まれた石標が建っている。中に入ると、そこは多くの樹木に覆われた境内で、右手に本堂か庫裏らしき木造の建物が建っているが仮本堂だそうです。

天徳寺は呆れるほど火災に遭っています。元和三年、明和三年、安永元年、嘉永三年、明治八年と5度もあり、更に大正12年(1923)の関東大震災により再び堂宇を焼失している。

その直後に建てた仮本堂が、現在の堂宇です。堂内左端に札所本尊の聖観音が祀られてあった。お詣りを済ませ、仮本堂で納経印をお願いする。本堂は、境内西側奥に二層八角の堂宇が建ってい

る。扉が閉ざされ、堂内を窺い知ることではできないが、正面に「天徳寺」の扁額が掲げられている。

平成17年に新築され、八角形の頂点には鬼瓦が載せられ、その鬼が口を開けて威嚇している。

鐘楼が仮本堂と相対した位置にあり、本堂とイメーヂを統一したのか、これまた奇抜なデザインで、ドーム型のような十二角形をした屋根である。

平成19年の建立とあるから、まだ新しい鐘楼だが、梵鐘は古く、寛永12年(1635)に鑄造された梵鐘で、二十三区内に現存する梵鐘としては最古のものでさうです。

門を入った左手に2基の墓石と石仏三体が立っている。墓は高芙蓉(こうふうよう)1722〜1784と河井筌廬(せんろ)1871〜1945の墓で、ともに篆刻家(てんこくか)画家でした。

高芙蓉 富士川望富嶽図 十八世紀 紙本墨画

## 愛宕神社と元国民放送局

江戸時代から都内で一番高い標高26mの愛宕山は信仰と、山頂からの江戸市街の景観の素晴らしさで有名な場所でした。『鉄道唱歌』の第1番にも「愛宕の山」と歌われています。

山上にある愛宕神社は、もとは1603年にこれから建設される江戸の防火のために徳川家康の命で祀られた神社でしたが、「天下取りの神」、「勝利の神」としても知られ、各藩の者たちは地元へ祭神の分霊を持ち帰り各地で愛宕神社を祀りました。

桜田門外の変で井伊直弼を襲った水戸藩の浪士達も、ここで成功を祈願してから江戸城へ向かったと

されています。

また、NHKの前身の一つであるJOAK、社団法人東京放送局は、この愛宕山に放送局を置き、大正14年(1925)7月の本放送から昭和13年のNHK東京放送会館への移行まで、ここから電波を発信されました。

太平洋戦争敗戦直後の1945年8月17日、降伏に反対する「尊攘同志会」の会員らが山に籠城、全国に決起を呼びかけたが失敗に終わった愛宕山事件。

昭和25年2月からVHF3chでNHKテレビの試験放送電波を送信開始。1952年12月5日にサービス放送を開始。1953年2月に本放送が開始され、1958年12月23日までNHK東京テレビの送信所として使われていました。

現在は高層ビルが林立したため、かつてのような見晴らしはなくなりましたが、大木などによる緑の豊かさには変わらない。

歴史ある曹洞宗青松寺、愛宕神社、NHK放送博物館、虎ノ門、神谷町、霞が関や汐留などの高層ビル群が存在する、現在の東京を象徴する風景を見せています。

### 愛宕神社の男坂は出世の石段

寛永11年1月28日(1634年)、徳川秀忠の三回忌として増上寺参拝の帰り、徳川家光が山上にある梅が咲いているのを見て、

「梅の枝を馬で取ってくる者はいないか」と言ったところ、讃岐丸亀藩の家臣曲垣平九郎が見事馬で石段を駆け上がった枝を取ってすることに成功し、その者は馬術の名人として全国にその名を轟かせた、という逸話から来ています。

講談や浪曲の定番「寛永三馬術」により、以降、出世の石段を馬で登った成功例は今までに3例しか存在していません。

一、仙台藩で馬術指南役を務め、廃藩後曲馬師をしていた石川清馬で、師の四戸三平が挑み、果たせなかった出世の石段登頂を1882年に自らが成功させ、これにより石川家は徳川慶喜より葵の紋の使用を許された。

二、参謀本部馬丁の岩木利夫で、1925年11月8日、愛馬平形の引退記念として挑戦し、観衆が見守る中成功させた。上りは1分ほどで駆け上がったが、下りは45分を要したと云われています。

この模様は山頂の東京放送局によって放送され、日本初の生中継とされる、昭和天皇の耳にも入り、結局平形は陸軍騎兵学校の将校用乗馬として使われ続けることとなりました。

三、馬術のスタントマン渡辺隆馬。

1983年日本テレビの特別番組『史実に挑戦』において、安全網や命綱、保護帽などの安全策を施した上で32秒で登頂しました。

**虎ノ門ヒルズ 多様な都市機能を徒歩圏内に備えたコンパクトシティ**

東京を代表する新たなランドマークとして認知されました、2014年6月開業の森タワーに続き、2020年1月、2番目のプロジェクトとして、ビジネスタワーが誕生しました。

さらに2022年1月には、森タワーの南側で住宅を中心とした、レジデンシャルタワーが誕生。そして、

桜田通りを挟んだ西側では、2020年6月に開業した日比谷線虎ノ門ヒルズ駅と一体開発した、ステーションタワーが2023年10月に開業しました。

森タワーを除く3つのプロジェクトはいずれも国家戦略特区事業に指定されており、これまでにない異次元のスピードとステージで虎ノ門エリアが進化しています。

これ等全てが完成「虎ノ門ヒルズ」は区域面積約7.5ha、延床面積約80万㎡に拡大。

オフィス総貸室面積約30万㎡、住宅数約730戸、ホテル約370室、商業施設約170店、情報発信拠点を中心とする多機能複合都市となりました。

**石灰質角礫岩、ざざれ石 文部省庁舎庭**

石灰石が雨水に溶解してその石灰分を含んだ水が時には粘着力の強い乳状態となり地下で小石を集結して大きくなる。

やがてその石が地上に出て、国歌に詠まれているように、千代、八千代 年を過ぎてざざれ石巖となりて苔のむす、その景観誠に目出度い石です。

特にこの石は国歌発祥の地と言われる岐阜県揖斐郡春日村の山中にあったもので、その集結の過程状態はこの石を一見してよく知ることができます。

春日村は現在合併により揖斐川町といえます。帰路の常磐線への乗換「虎ノ門ヒルズ駅(2014)」日比谷線虎ノ門ヒルズ駅で上野方面に乗車します、常磐線快速への乗換が簡単で楽な南千住駅、北千住駅で乗換可能です。

江戸新撰33観音巡拝第四回目コース資料